

平成30年度 長崎県学力調査 佐世保市の結果・改善策等について

佐世保市教育委員会 学校教育課

1 調査対象・人数

本市では小学校及び義務教育学校前期課程5年生(国語・算数) 2, 241名、中学校及び義務教育学校後期課程2年生(国語・数学) 1, 954名、中学校及び義務教育学校後期課程3年生(英語) 2, 013名を対象に実施。

2 教科別領域別結果

(1) 小学校及び義務教育学校前期課程 5年

教科	国語					算数				
	話す 聞く	書く	読む	言語	全体	数と 計算	量と 測定	図形	数量 関係	全体
市平均正答率	68.6	65.0	34.1	55.1	56.4	61.9	69.1	48.5	63.7	60.8
県平均正答率	69.2	66.1	35.2	58.6	58.5	64.1	68.9	50.9	64.9	62.5
県比達成率%	99.1	98.3	96.9	94.0	96.4	96.6	100.3	95.3	98.2	97.3

(2) 中学校及び義務教育学校後期課程 2年

教科	国語					数学				
	話す 聞く	書く	読む	言語	全体	数と 式	図形	関数	資料 活用	全体
市平均正答率	71.6	59.1	59.1	60.8	62.6	53.4	41.2	45.2	42.8	46.7
県平均正答率	73.6	62.3	62.3	63.4	65.3	59.7	46.5	53.3	49.9	53.1
県比達成率%	97.3	94.9	94.9	95.9	95.9	89.4	88.6	84.8	85.8	87.9

(3) 中学校及び義務教育学校後期課程 3年

教科	英語			
	聞く	読む	書く	全体
市平均正答率	69.1	52.1	25.3	49.5
県平均正答率	71.4	55.6	30.5	53.1
県比達成率%	96.8	93.7	83.0	93.2

3 課題と分析及び改善策 (○…よくできていること ▲…課題 ▲▲…昨年度に続く課題)

教科	課題	分析	改善策(例)
前期課程 小学校及び 義務教育学校 国語	○相手や目的に応じて話の構成を工夫する。 ○目的に応じて事例を挙げながら事実を伝える文章を書く。		
	▲▲文章の間違いに気づき、正しく書き直す。	<ul style="list-style-type: none"> 文章を書いている間に常体と敬体を混同する児童が多く、文末表現に気をつける力が身に付いていない。 話すときなど普段の生活の中で児童が意識していないため、書き直さなければならないことに気づく力が不足している。 常体と敬体についての理解が十分でない。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章を書くときは、常体と敬体を混同しないことを指導し推敲を習慣づける。 常体でまとめるなど授業のまとめや気づきを書かせる時に文末表現に意識を向けさせる。 文章を読むときは、文末表現に気を付けて読む指導を日常的に行う。 常体と敬体について感じ方や使い方の違いを話し合わせ、実感を伴って理解を深めさせる。

	<p>▲▲ローマ字で正しく書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 配当時間も少なく、ローマ字の学習が単にローマ字を覚えることや単語を練習することにとどまっているため、ローマ字の規則性や特徴などが定着していない。 	<ul style="list-style-type: none"> • 総合の調べ学習でパソコン入力をさせるなど活用する場を増やし、繰り返し使うことで定着を図る。 • ローマ字の良さや五十音表との共通点に気づかせ、興味を高める。
	<p>▲漢字を正しく読む、書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 普段の生活の中で使用頻度が少ないため、読んだり、書いたりする力が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> • 語彙ノート等をつくり、意味だけではなく用例を記入させることで使い方を理解させる。 • 漢字練習の仕方を指導する。例えば、漢字の成り立ちや用例、書き順など1字1字について理解が深まるように練習させる。
	<p>▲文の中における主語を選択する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 主語と述語等の言語事項は、単元で扱う時は確実に指導されているが、その後は授業の中でもほとんど扱わなくなるため、力が身に付いていない。 	<ul style="list-style-type: none"> • 学習した学年だけでなく、様々な学習や生活の場面において取り上げることで繰り返し言語事項に触れさせる。
<p>前期課程 算数 小学校及び義務教育学校</p>	<p>○整数や同分母の加法の計算をすることができる。 ○1より小さい数を小数で表すことができる。</p>		
	<p>▲場面と図を関連付けた2つの数量関係を理解している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 小数倍などを数直線図で表示する場面で、基準となるものや、比較の対象を理解できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> • 基準量と比較量を着目させるために数直線図を使いながら2つの数量関係を調べさせる。
	<p>▲▲1より大きい分数を表すことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 1の概念が理解できていないため、数直線上の位置を表示することができない。 	<ul style="list-style-type: none"> • 数直線上で1を意識し、単位分数の個数に着目し分数を表現する活動を増やし指導の定着を図る。
	<p>▲条件や構成要素を満たすかどうかを判断することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 垂直や平行の作図と性質を関連付けることができていない。作図と性質を別々のものとして児童が捉えている傾向にある。 • 複数の事項を関連させて判断することができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> • 学んだ性質を使って作図を行う活動を位置付ける。 • 文章問題では、条件を設定した上で、「できる」「できない」等の選択肢を与え、その根拠を記述する場面を設定する。
<p>後期課程 国語 中学校及び義務教育学校</p>	<p>○相手の発言を注意して聞き、必要な情報について考える。 ○文と文の意味のつながりを考えながら、わかりやすく内容を分けて書く。</p>		
	<p>▲伝えたい事柄について、自分の考えを根拠を明確にして書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • さまざまな種類の文章を読み必要な情報を取り出す力が十分に定着していない。 • その情報を根拠としながら自己の考えを書く力が十分に定着していない。 	<ul style="list-style-type: none"> • 「読むこと」と「書くこと」を効果的に組み合わせた授業を構想する。「書くために読む」ことで、必要な情報を明確にしながらか読解する力を身に付けさせる。 • 「読んだことを基に書く」際に構想メモ等を丁寧に作成させることで、自分の文

			章の構想を振り返るとともに、意図にあった文章を書くための方法を学ばせる。
	▲人物の心情をとらえる。	<ul style="list-style-type: none"> 複数の情報を整理しながら捉えていく活動に取り組む場面が不足しているため、読む文章量が多くなったり、様々なテキストの読解を求められたりした際に必要な情報を取捨選択しながら整理する力が十分に身につけていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 説明的文章だけでなく文学的文章の読解の際にも、図式化（登場人物の相関関係図等）してまとめるとともに、読解上重要となる語句を整理しながらまとめる活動を取り入れる。また、文章量が多い作品を、キーワードやキーセンテンスを絞りながら要約させる活動を積極的に取り入れる。
後期課程 数学 中学校及び義務教育学校	○問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる。		
	▲▲一次式の加法と減法の計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な計算力が身に付いていない。分配・交換結合などの計算の法則について理解できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 文字を用いた式の計算や多項式の計算では、項の意味に基づいて計算することや、計算の法則が保たれることなど、数の計算とも関連付けて指導する。
	▲▲分数を含む一元一次方程式を解くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 方程式を解くにあたり、「等式の性質」を理解できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 方程式に関する指導の際は、「等式の性質」について、上皿てんびんを用いた操作的な活動を取り入れる等、具体的なイメージをもって理解できるように工夫する。
▲▲与えられた条件から、 x と y の関係を $y = ax$ の式で表すことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 関数関係の意味を理解できていない。また、比例や反比例の関係を表す一般式について理解していない。 	<ul style="list-style-type: none"> 「関数領域」指導の際は、表、式、グラフ等から変数x、yの間の関係を見出す活動を仕組み、比例（$y = ax$）や反比例（$y = a/x$）の一般式につなげる。 	
後期課程 英語 中学校及び義務教育学校	○ある状況や場面、事物を描写説明した単文レベルの英文を聞き分ける。 ○単文レベルの英文の中で、文脈的なつながりを理解して適切な語彙を用いた表現を判断する。		
	▲▲疑問詞を用いた疑問文 <ul style="list-style-type: none"> Whose を用いた疑問文 Who が主語となる疑問文 	<ul style="list-style-type: none"> 疑問詞を活用しながらの英語でのやりとりが不十分なため、活用力が身につけていない。また、疑問詞を用いて相手に質問する力も不足している。 課題を指導計画の中に位置付けた計画的な指導が設定されていないため、力の定着が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 言語活動を通しての文法の理解を深めさせる。 ウォームアップ等において、様々な疑問詞を使った場面設定を工夫する。 授業中のやりとりの中で、意図的に既習事項を用いて英語を使う有用感や楽しさを味わわせる。
	▲書くこと 状況にあった英作文 <ul style="list-style-type: none"> 文脈から判断し、適切な英語で表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> テーマや場面の中で、生徒が根拠（理由）に基づいた意見等を表現する機会が十分に設定されていないため、表現力が身につけていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや理由を書く指導を行う。 自分のことや身近なことについて書く活動を工夫し、継続して行う。

	要求に応じた英作文 ・要求に応じて、適切な英語で返事を書く。	・自分の「意見」が何であるか、またそう思う「理由」はどこにあるのか区別した指導ができていないため、要求に応じた作文を書く力が不足している。	・英作文の力を評価する際は、語彙・文法・構成（論理）の3観点で評価し、達成感を味わわせ、英語を使うことへの意欲を喚起する。
--	-----------------------------------	---	---

4 考察

小学校国語における漢字の読み書き、小学校算数における小数の減法の計算、中学校国語における漢字の読み、中学校数学における一次式の計算や一元一次方程式を解くことなど基礎・基本の未定着という課題が見られる。

授業中の理解とともに、その後も確実に使うことができるような定着させるための手立て・工夫が必要である。また、その学年で身に付けるべきことは、その学年で身に付けさせることの徹底が求められる。

小学校国語2一三、小学校算数B1一(2)、中学校国語3一五、中学校数学B2一(1)、中学校英語10一2の各問題に見られるような「求められている事柄に応じて文章を書くこと」は佐世保市の児童生徒の継続的な課題である。

授業において、小学校の国語においては「登場人物の状況の変化の根拠となる叙述を書く」活動を行うことや、他の教科においても根拠を示しながら考えを述べたり書いたりする活動を積極的に取り入れていくことが求められる。

また、授業等で書く機会を増やすとともに、日常的に機会を捉えて、個別に指導を徹底していくことが大切である。

以下、各教科の分析を通して考えられる全般的な改善策を述べる。

【小学校及び義務教育学校前期課程 国語】

○小学校国語2一三のような「登場人物の状況の変化の根拠となる叙述を書く。」問題については、変化の根拠となる叙述に気付いていないのではなく、問題文の意図を読み取って適切に答えることができていないことも考えられる。問題文をよく読んで、適切に答えること（このような形のテストを解くスキル）を向上させるために、テストの後に必ずやり直しと解説をすることが重要となる。

【小学校及び義務教育学校前期課程 算数】

○小学校の算数では、条件をみだすかどうかの判断を求めたり、構成要素と図形の関係を考えたりするなど複数の事項を関連させ数学的な見方・考え方を深める活動を取り入れることが求められている。そのためにも単元の中で根拠をもとに考える場を位置付ける。また、説明ができるようになるために考えを示すモデルのようなものに触れさせるなどの工夫をする。

【中学校及び義務教育学校後期課程 国語】

○中学校の国語においては、様々な形態の文章から条件に合わせた読解を行う力が十分に身に付いていない。様々な形式のテキスト（図や表を含むパンフレット等）の読解に取り組む活動を継続的に行うことで、どのような文章にも対応できる読解力（必要な情報を取捨選択したり情報同士を効果的につなげたりする力）を身に付けさせる必要がある。また、「書くこと」と「読むこと」など複数の領域の活動を効果的に組み合わせた授業を設定することで、読解の視点を絞ったり読解した内容を効果的に用いて表現したりする力を伸ばすことも求められている。

【中学校及び義務教育学校後期課程 数学】

○生徒が既習事項について定着できていない状況で、新規学習内容を理解して定着につなげることは難しい。小学校や中学校及び義務教育学校（後期課程）の前学年までに学習した内容が、これから生徒が新しく学習する単元（内容）と、どのようなつながりがあるかについて、教師がしっかりと単元全体を見通した上で指導することが大変重要である。「基礎的な計算力の定着を目指す」、「日常生活にある数学の発見」、「根拠を示して考えを伝えるために対話的な活動を仕組む」等、単元構想をもとにして本時の授業をつくることが求められる。